

『約束された方』(要旨)

聖書箇所：マタイの福音書1章1節～17節

教会に来始めたばかりの方から「聖書をどこから読んだらいいですか？」と質問された時に、回答に詰まった経験はありませんか？新約聖書の第1巻目のマタイの福音書は、「系図」から始まります。一見私たちにとって馴染みのないカタカナの羅列。しかし注意深く見ると、その系図に記された名前から、イエス様がどのような救い主であるかが浮かび上がります。

【1】「救世主」が示すもの

スポーツや営業などで苦しい場面から脱出できるように尽くしてくれた人を、「救世主」と呼ぶことがあります。閉塞感に覆われたこの社会で、現状を打破してくれる「救世主」を人々は求めるのではないのでしょうか。この日本語の「救世主」は英語の「Messiah メサイア」の和訳です(改正増補和訳字書, 1869年)。もともとヘブル語の「メシア」は「油注がれた者」という意味です。イエス様が誕生された時代にはそれが「救世主」という意味で使われるようになりました。新約聖書はギリシャ語で書かれており「メシア」のギリシャ語訳が「キリスト」なのです。つまり「キリスト」とはユダヤ人が待ち望んだ「救世主」を指します。さてマタイは、系図を通して、イエスがどのような「救世主」だと伝えたのでしょうか。

【2】アブラハムの子、ダビデの子である「救世主」

マタイは、イエス様がアブラハムの子孫、ダビデの子孫である「キリスト」だと言います(マタイ 1:1)。彼はアブラハムからダビデまで、ダビデからバビロン捕囚まで、そしてバビロン捕囚からキリストまでの14代を3区分にしました¹。彼は系図を通して、イエスがアブラハムの子、ダビデの子であることを読者に伝えます。

当時のユダヤ人は自分たちが「アブラハムの子」であると自覚していました。かつて神様はアブラハムに、全ての人々の祝福の源となる、と約束しました(創世記12:2~3)。マタイはそのアブラハムへの約束が、イエスの誕生によって成就したと伝えたのです。

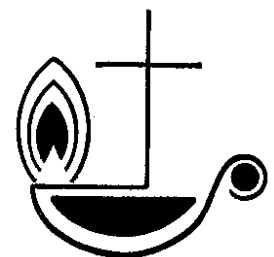
次に、イエスの誕生は、メシア(救世主)がダビデの子孫から生まれるという約束の成就で

あったことを明らかにします(参照: IIサムエル7:12, 16)。しかしダビデ王朝は「バビロン捕囚」(1:17)とともに崩壊しました。そのためユダヤ人は、ダビデの世継ぎとは一体誰か、それがどのように実現するかわからないまま待ち望んでいました。さてマタイは、イエスの母マリアの夫ヨセフが、約束のダビデの血筋であったと系図を通して明らかにしました。それは後世の人々がイエスを「救世主」と認定したのではなく、ユダヤ人が長く待ち望んできたアブラハムの子、ダビデの子である「救世主」が、時至って生まれたと伝えているのです。

【3】約束された方

この系図のもう一つの特徴は、人の目から見て、栄光ある人物のみが名を連ねているわけではないということです。特にタマル(1:3)、ラハブ(1:5)、ルツ(1:5)、そして「ウリヤの妻(バテ・シェバ)」(1:6)の4人の女性たちはおそらく全てユダヤ人ではありませんでした。そしてどの女性も、通常の結婚とは言い難い背景を抱えていました。「ウリヤの妻」という記述は、ダビデの姦淫と殺人を読者に想起させます。マタイは、イエスが族長、王、異邦人の女性、遊女、そして大罪を犯した人物の子として生まれたと伝えます。この系図は、人が隠しておきたいと思う罪の現実を読者に思い起こさせます。それは「約束された方」が罪ある人間の「救世主」であることを物語ります。

▶私たちが心に闇を抱えていることを認める時に「すべての人を照らすそのまことの光」(ヨハネ1:9)なる「救世主」が必要だと知ります。主イエスは「すべての人」、そう、あなたを照らすまことの光なのです。



¹ 厳密に数えると最初と最後は13世代である。R. T. フランスは、14代×3区分について「統計的というよりは神学的な意味がある」と指摘する(R. T. フランス『ティンデル』)。